

福寿草の季節です!

二月の花を検索してみましたら、福寿草が最初に出てきました。この頃は正月を迎えるための飾り花として花屋さんで年末にたくさん売られます。年末に売られている花はハウス栽培で、花芽は晩秋にできるもので寒さに合わせて室内に置くと早く咲くのだそうです。光や温度に敏感で、昼間でも日がさえぎられると、数分で花は萎み、再び日が当たるといつのまにか花が開くそうです。正月には福寿草と南天の実とセットで「難を転じて福となす」という縁起物の飾りつけとして売られているということです。諺に合った組み合わせを好み、生活の中で人々が幸福をもたらしてくれますようにと願う日本人としての心を表している花の一つなのだと思います。福寿草の福寿は「幸福と長寿」の草という意味で大変おめでたいものです。旧暦の正月は二月なので、この頃に咲き出すことから、新年を祝う花として親しまれていたのが正月の花として今でも売られているのでしょう。

さて、学校にとって二月は新年度を迎える前の大事な時期でもあります。今年度の教育実践を振り返り、次年度に向けて、学校・学級経営の方向性を構築する時だからです。先生たちは学校の生徒たちが日々の学習や各種の取組に対して楽しく、前向きに頑張っている姿を想像し、目指す生徒像を実現するために方向性を描きます。福寿草の説明で『光や温度に敏感で、昼間でも日がさえぎられると、数分で花はしぼみ、再び日が当たるといつのまにか花が開く』とありました。福寿草を生徒に置き換えても同じことが言えるように思います。

生徒は様々な面で「非常に敏感」であり、また「日が当たる」を「大人の言動」とすると「-」の言動にはすぐ萎んだり「+」の評価に対してはすぐに反応を返してくれます。私たちは生徒たちの笑顔からたくさんの教師である「幸福」をもらっていると思います。福寿草のように、「幸福」の象徴のような生徒たちを育てるために頑張れる教師になっているだろうか、振り返ってみることが必要な季節と言うことかも知れません。



たつの市立新宮中学校長
芝崎 幸成

